

スポーツの聖地づくり 概要版

1 スポーツの聖地づくりの推進体制

多くの部局が関与する複合的な領域である
スポーツ行政を部局横断で総合的に推進

○計画概要(H29策定)

名称	第2期静岡県スポーツ推進計画
位置付け	・国のスポーツ基本計画を参酌し地方の実情に即して策定 ・静岡県新ビジョンの分野別計画
基本理念	「スポーツの聖地づくり」 競技力向上、参画人口の拡大、人材と場の確保、地域活性化

○スポーツの聖地づくり総合推進プロジェクトチーム

設立趣旨	基本理念「スポーツの聖地づくり」を実現するため、目標に向けたイメージ共有と、施策推進に必要な調整を行う
構成員	プロジェクトリーダー：出野副知事 土屋特別補佐官 タスクフォース(TF)リーダー： スポーツ担当部長 構成員：関係局長
R2年度 開催実績	実務者会議（10月）：R3当初予算調整 TF会議（3月）：取組状況等を共有

2 スポーツ推進計画指標の状況

- 「成人の週1回以上のスポーツ実施率」、「成人女性の週1回のスポーツ実施率」は、目標値65%に向け、進捗が遅れが見られる。
- 「県障害者スポーツ大会への参加者数」や「県立水泳場等の利用者数」、「スポーツリクリエーション交流人口」は、RWC2019の成功、東京オリパラ控え、県民のスポーツに対する関心や意欲が高まったが、コロナ禍により県内スポーツ大会が中止したこと等から減少
- 「国民体育大会における総合成績」は、元年度は17位となり、向上が見られたものの強化・育成途上にある。

TF	課題分野	目標値	2019年度 (R元)	2020年度 (R2)	2021年度 目標値	評価
I	参画人口の拡大	成人の週1回以上のスポーツ実施率	54.5%	57.7%	65.0%	↘
		新体力テストの記録が全種目において全国平均を上回る割合	59.3%	65.7%	100%	↗
	多様性のある社会の実現	静岡県障害者スポーツ大会への参加者数	2,902人	454人	3,500人	↘
		成人女性の週1回のスポーツ実施率	52.8%	51.5%	65.0%	↘
II	「人材」と「場」の充実	県立水泳場及び富士水泳場の利用者数	303千人	R元 284千人	310千人	↘
		県立武道館の利用者数	305千人	R元 250千人	310千人	↘
III	地域の活性化	スポーツ・レクリエーション交流人口	2,703万人	R元 2,588万人	3,500万人	↘
		東京2020オリンピック・パラリンピック大会運営ボランティア登録者数	852人	R3.1月 924人	2020年度 2,500人	↗
IV	競技力の向上	国民体育大会における総合成績	17位	-	8位以内	-
		東京2020オリパラ出場の本県関係者数	-	-	五輪50、 パラ35	-

3 各タスクフォースの主な取組（令和2年度）

TF1 参画人口の拡大

- 東京2020公認プログラム『静岡県ブレードランニングクリニック』
- 高校部活動等へのスポーツエキスパート派遣
- すこやか長寿際スポーツ・文化交流大会実施・ねりんピックへの静岡県代表選手派遣
- 令和2年度わかふじスポーツ大会の開催
- 静岡県障害者スポーツ大会等の開催等



ブレードランニングクリニック

TF2 人材と場の充実

- トップアスリート等を中学校部活動へ派遣
- スポーツ施設、各学校の施設管理運営費による適正管理
- 県営都市公園の適正管理
- 指定管理者によるスポーツ施設での教室等の充実
- 小笠山運動公園でのラグビー環境の整備



トップアスリート派遣

TF3 地域活性化

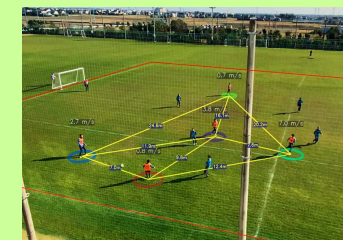
- 合宿誘致の推進を通じたスポーツに関する静岡ブランドのセールス方法確立
- RWC2019静岡県開催による有形・無形の成果をレガシーとして次世代に継承
- オリパラレガシーの推進（トレーニングヴェレッジ構想、国際大会の誘致など）



スポーツ合宿展示会出展

TF4 競技力の向上

- 医科学（準高地）の活用、ICTを活用した競技力強化
- 雇用された選手が活動しやすい環境づくりの支援
- 世界クラスの指導者の招聘による指導者資質向上及び指導者体制強化



ICTを活用した競技力向上